

日本語とブラジルポルトガル語における依頼表現の丁寧度の対照研究

—関西在住の日本人とブラジル人の場合—

小野 和信

1. はじめに

1988年に日本政府が外国在住の日本人の子孫である、日系人2世と3世の受け入れを認めてから30年が経過した。法務省（2017）のデータによると、日本で暮らすブラジル人の数は191,362人で、^①関西地方にはその内の14,290人が暮らしている。その結果、異なる文化を持つ日本人とブラジル人が交流する際に、日常生活レベルで様々な分野（言葉や社会保障、教育、医療など）において問題が発生している。本稿では、コミュニケーション上で生じてしまう問題に焦点をあて、関西在住の日本人とブラジル人がそれぞれの母語で用いる依頼表現を対照する。関西限定にした理由は、全国規模の調査は不可能なためかつ地域方言の差が調査結果に影響を与えないためである。

依頼を遂行する際、聞き手にかかる負担が重くなると、話し手が聞き手の立場を尊重しながら、その場面に応じた言語行動を工夫する必要があり、聞き手に失礼にならないよう気配りをする。従って、日本人とブラジル人における社会的なしきたりの認識が異なることで、双方が使用する依頼表現も異なる可能性がある。本稿で取り上げる「依頼表現」は、一般的な意味として「何かを他人に頼むこと」であり、話し手が自分の利益になる行為を聞き手に求めるので、聞き手に大きな負担を強いることになる。Brown & Levison（1987）のポライテネス理論を参照すると、依頼が遂行される際に、話し手は聞き手の Face を侵さないように、negative politeness のストラテジーを使用することにより、聞き手に与える負担を軽減する必要がある。つまり、話し手は聞き手との円滑な人間関係を保つために、十分な配慮を行う必要がある。非母語話者が母語話者と接触する場面では様々な問題が起こりうるので、その接觸場面における阻害要因を明らかにするために双方の母語を検証する必要がある。そこで、関西在住の日本人とブラジル人が、母語で用いる依頼表現の丁寧度とその形式の働きを比較し、それぞれの言語文化の違いを明確にする。

2. 依頼行動における先行研究

本節では、依頼行動の枠組みを定義づけるために、これまで行われてきた依頼に関する研究を考察していく。まず、Searle (1969,p.66)²⁾ は、「依頼行動」が遂行されるために、下記の適切性条件を満たさなければならないと述べている。

命題内容：聞き手 H による未来の行為 A

予備： I H は A を行う能力がある。話し手 S は H が A を行う能力があると信じている。

II S と H の双方にとって、通常の状況においては H が A をするのが明らかではない。

誠実： S は H に A を行って欲しいと望んでいる。

本質： H に A を行わせようとする試み。

一方で、Searle (1969) の発話行為理論によると、全ての条件を満たさなくても間接的に依頼が遂行されることもあるという。つまり、表現形式が異なっても発話内行為の力によって依頼が遂行されるのである。発話内行為とは話し手が発話することによって聞き手に何かをさせようとする行為であり、日本語で間接的に依頼を遂行する際に、一部の適切性条件を満たした表現を用いれば、下記のような間接依頼を成立させることができる。

- (1) これをして欲しいんだけど。³⁾ (誠実性条件を満たしている)
- (2) これ明日までにできるかな？↗ (予備条件を満たしている)
- (3) これしますか？ (命題内容と予備条件 II を満たしている)

しかし、熊取谷 (1995) は、Searle の適切性条件だけで依頼を規定するには十分ではないという。次の(4)のような表現は発話行為理論で扱いきれず、適切性条件を満たさない表現も間接「依頼」として成り立つ場合もあるが、これらの表現は独立したその場限りのものとして扱うべきだと指摘している。

- (4) この部屋蒸し暑いね。

そして、井出・荻野・川崎・生田 (1986) は日本語では、依頼表現の丁寧度や押しつけの度合いを変えるために、下記の諸形式を考慮しなければならないと述べている。

(a) 敬語の使用・不使用

例、「いい？」 < 「いいですか」、または「貸して」 < 「貸してください」 のように後者の方が前者より丁寧である。

(b) 使用する形式：命令形・肯定疑問形・否定疑問形・希望を叙述する形

「貸して」<「貸してくれますか」<「貸してくれませんか」<「貸して頂きたいんですけど」のように前者から後者の順で表現の丁寧度が高くなる。

(c) 補助動詞の使用：くれる・もらうなど

「貸してくれますか」<「貸してもらえますか」、あるいは「貸してくださいますか」<「貸して頂けますか」のように受け動詞（～てもらう・～ていただく）は与え動詞（～くれる・～くださる）より丁寧度が高い。

砂川（2006,p.317）は丁寧度を高めるために依頼で使用される「許可求め表現」の特徴を次のように述べている。「許可求め表現」を用いる際、「依頼表現」の場合と同様に話し手が恩恵を受け、決定権は聞き手が持っているが、誰が「行動」を実行するのが異なる。「依頼表現」では聞き手が行動するのに対し、「許可求め表現」では話し手が行動するため、聞き手に与える負担が少なくなり、丁寧な表現であると考えられる。それゆえ、依頼で使われる「許可求め表現」は、実際には聞き手が行動するが、話し手が行動を実行するかのうように見せかけることで、丁寧度の高い表現として用いることができる。

一方、日本語のような敬語の体系を持たないブラジルポルトガル語でも、依頼表現の種類は多く、ポルトガル語で用いられる直接的依頼表現と間接的依頼表現について Munaretti (2005, pp.65-66) は、直接的依頼表現は文の構成により明示的に話し手の要求を伝える表現であり、間接的依頼表現は前述の Searle の予備条件を満たし、「依頼」として成立した表現と聞き手に「依頼」を連想させる表現のことであると定義している。次の表現によって直接的に依頼が遂行されると考えられる。

- 命令や命令的な要素が含まれている表現 " (Me dê) seu cartão de crédito." 「あなたのクレジットカード（を頂戴）。」⁴⁾
- 遂行動詞「pedir (お願いする・頼む)」のはたらきかけによって話し手の意図を明白に示している表現 "Eu peço para você partir." 「あなたが去るように依頼します。」
- 助動詞の発話内行為の力によって話し手が明白に依頼の必要性を訴える表現。例えば、部屋に戻るよう依頼する際に次の表現が使用されることがある。" Nós precisamos que você

volte ao seu quarto. "「私たちはあなたが自分の部屋に戻ることを必要としています。」

- 話し手の願望を直接聞き手に伝える表現 "Nós desejamos que você mantenha isto embaixo." 「私たちは、あなたがそれを下に置いておくことを希望します。」

そして、間接的依頼表現の例を挙げると、 "Você consegue abaixar (o som)⁵⁾ um pouco?"
「あなたは少し（音を）小さくすることができますか。」。

Carvalho (2013, pp.15-21) はポライトネス理論の観点から依頼表現の丁寧度について述べ、依頼表現の負担を和らげる文の形式に着目した。その結果、ポルトガル語における依頼表現の丁寧度の調整は下記の三つの要素から成立していることが分かった。

(a) 文の形式：命令文・平叙文・疑問文の順で依頼表現の丁寧度が増し、聞き手に与える押し付けも弱くなる。例を挙げると、Me dê...< Pego...< Pode...? の順で丁寧度が高くなる。

(b) 動詞の種類：使用する動詞の種類によって、表現の押しつけの度合いが変わる。

querer (欲する・望む・願う) < 遂行動詞 pedir (頼む・お願いする) < precisar (必要とする) の順で押し付けの度合いが強くなる。

(c) 動詞の「法」と「時制」：動詞を命令法に活用すれば、直接依頼になる。また、動詞は直説法現在形<直説法不完全過去形<直説法過去未来形の順に丁寧度が高くなる。

例として poder 動詞を考察すると、pode < podia < poderia の順で丁寧度が増す。

Muranetti (2005) と Carvalho (2013) の研究で依頼表現には多くのバリエーションがあることが明らかになった。しかし、本稿では、依頼表現を分析するための枠組みとして、発話内行為理論とポライトネス理論に焦点をあて、依頼表現の発話内行為の力と文の形式の丁寧さを基に分析を行うため、更なる分析の枠組みを構築する必要がある。

3. 分析の枠組み

本節では、調査で集めたデータを分析するために、前節で述べた先行研究を参照し、依頼表現における分析の枠組みを設定する。井出・荻野・川崎・生田 (1986)、熊取谷 (1995)、砂川 (2006) の研究に基づき、日本語で使用される依頼表現を該当する形式に分類した結果は、下記の表1の通りである。

表1 日本語における依頼表現の表現形式の種類

形式の種類	説明	依頼表現
依頼	「～ください」や「～お願いします」などの補助動詞を付け加えたものである	水を持ってきてください
命令	「～ください」など、命題内容に対するモダリティーを示す表現が欠落しており、聞き手が行為を実行する強制力が増す	水を持ってきて
希求	逆説の従属節「～けど・～が」が欠落した単なる希望表現	水を持ってきて欲しい
問い合わせ	話し手は聞き手に、用件を実行するための条件の具備等を問い合わせる	水ある？
希求+和らげ	逆説を表す従属節「～けど」という文末表現を用いて、「和らげ」を生み出す	水を持ってきて欲しいんだけど
許可求め	依頼で使われる「許可求め表現」は、話し手が行動を実行するかのように見せかけることで、丁寧な表現になる	水を持ってきてもらってもよろしいでしょうか

さらに、これまでの先行研究では、敬語の使用・不使用または依頼表現の諸形式の使用により、

表2 日本語の依頼の文末表現の丁寧度対表現形式の種類

形式の種類	敬語	依頼の文末表現	丁寧度
命令	不使用	ベン	<
命令		貸して	<
問い合わせ		(ベン)ある？	<
依頼		貸してくれる？	<
許可求め		借りていい？	<
希求+和らげ		貸してほしいんだけど	<
依頼	使用	貸してください	<
問い合わせ		いいですか	<
依頼		貸してくれませんか	<
依頼		貸してもらえませんか	<
依頼		貸してくださいませんか	<
依頼		貸して頂けませんか	=
問い合わせ		お借りできますか	=?
依頼		貸して頂けますか	=?
希求+和らげ		貸して頂きたいんですけど	=?
許可求め		お借りしてもよろしいでしょうか	+

聞き手への押しつけの度合いを調整でき、丁寧度も変わると結論付けられている。そのために、依頼表現の文末表現を表現形式の種類に対応させる必要があるとし、新たな分析の枠組みの設定を試みた。

先行研究で述べた井出・荻野・川崎・生田(1986)は親疎関係や支配関係の異なる相手にペンを借りたい際にどのような依頼表現を使用するのかを調査した。その結果を表2で表現形式の種類に対応させている。表2の[<]はすぐ下の文末表現の方が丁寧度が高いことを示し、[=]は差がないこと、[=?]は差がはつきりしていないことを示している。そして、[+]は最も丁寧な文末表現である。

Munaretti (2005) と Carvalho (2013) は依頼表現の分類を行ったが、依頼の表現形式の種類別の設定はなかった。そのため本稿では、日本語のデータと比較するために、日本語の依頼表現の枠組みを Munaretti と Carvalho の枠組みと照らし合わせ、ポルトガル語の依頼表現を表現形式に分類し、下記の表3の新たな枠組みを提案する。

表3 ポルトガル語における依頼表現の表現形式の種類

形式の種類	説明	依頼表現	訳文
依頼	遂行動詞pedirと助動詞poderを含む発話機能の発話 内行為の力が依頼表現の適切性条件を満たしている	Você pode ^④ me dar um copo de água?	水を取ってくれますか
命令	命令文もしくは命令文の動詞が省略されている文のことである	Dê-me um copo de água!	水を一杯くれ
希求	quererは広義は「望む・欲する・願う」であり、單なる希求表現	Queria um copo de água	水が欲しいです
勧め	話し手が聞き手と一緒にある行為を行おうと試みている発話機能である	Vamos tomar um copo de água.	水を飲みましょう
問い合わせ	聞き手に意向・能力の有無を問いかける	Você consegue pegar um copo de água que está na geladeira?	私に冷蔵庫にある水を取ることが出来ますか
希求+和らげ	gostarの広義は「好む」または「気に入る」であるが、過去未来形に活用することで、話し手の願望を丁寧に表すことができ、日本語と同様に、「和らげ」を生み出す	Gostaria de um copo de água	水が欲しいのですが

ポルトガル語の場合は、文の形式・動詞の種類・動詞の「法」と「時制」を考慮した上で表現の丁寧さを表す。従って、ポルトガル語の依頼表現の丁寧さを表現形式の種類に対応させた結果を下記の表4の通りに示す。

表4 ポルトガル語の依頼表現の丁寧度対表現形式の種類

表現形式	文の形式	動詞 時制・法	依頼表現	訳	丁寧度
[命令]	命令文	×	Água	水	=?
[命令]		現在	Dê-me...	くれ	<
[希求]	平叙文	現在	Quero que traga...	持ってきて欲しい	=?
[依頼]			Peço que...	頼む・お願いする	<
[勧め]			Vamos tomar...	…しよう(飲みましょう)	=?
[依頼]			Pode trazer...?	持ってきてくれる?	<
[問い合わせ]	疑問文	不完全過去	Consegue trazer...?	できる?	<
[希求]			Queria que trazesse...	持ってきて欲しいんです	<
[依頼]	疑問文	過去未来	Podia trazer...?	持ってきててくれますか	=?
[依頼]			Poderia trazer...?	持ってきてくださいますか	<
[希求+和らげ]	平叙文	条件法+過去未来	Gostaria que...	欲しいんですが…	=?
[依頼]	疑問文		Será que poderia trazer...?	持ってきて頂けるのでしょうか	+

4. 調査

日本人の日本語と、ブラジル人の母語であるポルトガル語とを比較した。そして、日本人とブラジル人が依頼する際に用いる表現形式に、どのような相違があるかを明らかにするため、記述式のアンケート調査を行った。

4. 1. 調査のインフォーマント

2017年10月から2018年1月までに関西で行ったアンケート調査のデータを基に分析する。これまでの先行研究によると、日本人の場合は性別や年齢の差から依頼表現の丁寧度が異なる傾向があ

る。本稿では、均斉のとれたデータを収集するために、インフォーマントの年齢と性別の割合に極端なバラつきがないように注意した。その詳細は次の表5の通りである。

表5 関西に在住しているブラジル人と日本人のインフォーマントの構造

国籍	20代		30代		40代		50代		60代		合計
	男性	女性									
日本人	3	6	5	6	9	9	5	5	3	2	53
ブラジル人	5	3	6	5	8	7	7	5	3	2	51

4. 2. アンケート調査の内容

本稿では、親疎関係および聞き手に対する話し手の支配力が異なる、母親・友人・ウエイトレスを聞き手にどのような依頼表現を使用するのかを分析するために、「水を持ってきてもらう」という場面で何と言つて依頼するのかを答えてもらった。

5. データ分析

収集した依頼の際に用いられた表現をその形式に対応させて分類した。各場面で用いられた表現形式の出現件数と出現率を分析した。

まず、場面1「母親に水を持ってきてもらう」のデータを下記の表6にまとめた。この場面の相手は親しい身内なので、聞き手に対する配慮が薄くなり命題内容を直接的に伝えることが多くなるため、双方の依頼の表現においては〔命令〕の形式が最も頻繁に使用された。日本人のデータを観察すると「持ってきて」の出現率は75.5%と大半を占めているが、ブラジル人が最も多く使用した依頼表現の「me traga」は52.9%と約半数に留まっている。次いで、ブラジル人が高い割合で使用しているのは〔依頼〕であり、出現率は43.2%に達する。〔依頼〕として用いられる依頼表現は〔Pode trazer?〕と〔Poderia trazer?〕があり、同じ割合で使用されているが、前者より後者の方が丁寧な依頼表現になる。その一方で、日本人が用いた〔依頼〕は18.9%だった。

表6 場面1に出現した形式の種類と依頼表現の件数と出現率

日本人				ブラジル人			
形式の種類	依頼表現	件数	出現率	形式の種類	依頼表現	件数	出現率
命令	持ってきて	40	75.5%	命令	Me traga	27	52.9%
依頼	持ってきてくれる？	5	9.4%	依頼	Pode trazer?	11	21.6%
依頼	持ってきてくれない？	3	5.7%	依頼	Poderia trazer?	11	21.6%
希求	持ってきてほしい	2	3.8%	希求	Quero	2	3.9%
依頼	持ってきてください	2	3.8%				
希求+和らげ	持ってきてほしいんだけど	1	1.9%				

表7に場面2「友人に水を持ってきてもらう」のデータを示す。この場面の相手「友人」は、話し手にとって家族がウチの人に対し、ソトの人であることから、日本人の場合は〔許可求め〕が最も多く使用された表現形式だったのに対し、ブラジル人はこの場面でも〔命令〕を最も多く使用した。日本人の使用頻度が高かった〔許可求め〕の出現率は47.2%と半数を切っており、場面1の〔命令〕ほど、他の表現形式との顕著な差は見られなかった。その理由は、〔依頼〕の出現率の合計が28.3%で、〔命令〕が11.3%に及んだことから分かるように、〔許可求め〕以外の表現形式の使用が分散しているためである。ブラジル人が使用した表現形式の出現率は、〔命令〕の37.3%に続き、〔依頼〕の出現率は35.3%であったので、場面1の〔命令〕と〔依頼〕の出現率と同じような傾向が見られた。また、日本人が〔許可求め〕の依頼表現「持ってきてもらっていい?」や〔依頼〕の依頼表現「持ってくれる?・持ってきてくれない?・持つて来てください」を用いているので、場面2で使用されている依頼表現の丁寧度が高くなっていると言える。ところが、ブラジル人は場面1と場面2でも〔命令〕の依頼表現「Me traga」や〔依頼〕の依頼表現「Poderia trazer?, Pode trazer?」をほぼ同じ割合で使用しているため、ブラジル人はいずれの場面でも話し手が聞き手と親しい関係であることを重視し、表現形式を使い分けていないことがわかる。つまり、ブラジル人は「ウチとソト」の関係より親疎関係を考慮し依頼を遂行すると考えられる。

表7 場面2に出現した形式の種類と依頼表現の件数と出現率

日本人				ブラジル人			
形式の種類	依頼表現	件数	出現率	形式の種類	依頼表現	件数	出現率
許可求め	持ってきてもらってもいい?	25	47.2%	命令	Me traga	19	37.3%
依頼	持つててくれる?	8	15.1%	依頼	Poderia trazer?	13	25.5%
命令	持つてきて	6	11.3%	依頼	Pode trazer?	5	9.9%
依頼	持つててくれない?	4	7.5%	許可求め	Posso pegar?	7	13.7%
希求	欲しい	4	7.5%	希求	Quero água	3	5.9%
依頼	持つて来てください	3	5.7%	希求+和らげ	Gostaria de água	3	5.9%
希求+和らげ	持つてほしいんだけど	3	5.7%	問い合わせ	Dá para trazer?	1	2.0%

場面3「ウエイトレスに水を持ってきてもらう」のデータを表8に示す。この場面の相手はウエイトレスなので、身内でもなければ親しい間柄でもない。また、ウエイトレスにとって水を運ぶ行為は仕事に当たるので、その行為を行うことは当然であると考えられる。ここで、日本人が最も多く用いる表現形式の種類は、場面2で最も多く出現した〔許可求め〕より押し付けの度合いが強い〔依頼〕である。しかしながら、ブラジル人は場面1・2に続きこの場面でも〔命令〕を最も多く使用している。日本人が用いる〔依頼〕の出現率の合計が96.2%を占める一方で、ブラジル人が用いる〔命令〕

と【依頼】は二分しており、【命令】の出現率は 45.1%で、2番目に多く使用された【依頼】は 43.2%に達している。この場面 3において特筆すべきは、依頼表現の丁寧度の違いである。この場面では、話し手と聞き手であるウェイトレスの関係は互いに親しくない「ソト」であり、支配関係では話し手の方が上であるが、日本人は支配関係に重点を置くことなく、親しくない「ソト」の関係を考慮し、敬語で丁寧度の高い「持ってきてください、持ってきて頂けますか、持ってきてもらえますか」を使用している。それに対し、ブラジル人は支配関係に重点を置き、場面 1・2 と同様に【命令】の「Me traga」と【依頼】の「Poderia trazer?, Pode trazer?」を多く使用している。

表8 場面 3に出現した形式の種類と依頼表現の件数と出現率

日本人				ブラジル人			
形式の種類	依頼表現	件数	出現率	形式の種類	依頼表現	件数	出現率
依頼	持ってきてください	33	62.3%	命令	Me traga	23	45.1%
依頼	持ってきて頂けますか	13	24.5%	依頼	Poderia trazer?	11	21.6%
依頼	持ってきてもらえますか	5	9.4%	依頼	Pode trazer?	10	19.6%
許可求め	もらってもいいですか	2	3.8%	希求	Quero água	4	7.8%
				許可求め	Posso pegar?	1	2.0%
				依頼	Será que poderia trazer?	1	2.0%
				希求+和らげ	Gostaria de água	1	2.0%

以上の結果をふまえると、日本人は敬語行動の意識が高いが、ブラジル人のその意識は非常に低く、疎遠の相手に対しても丁寧度の低い依頼表現や押し付けの度合いが高い【命令】のような表現形式を用いることが分かった。また、相手との親疎関係が異なる場面でも同じ丁寧度の依頼表現が頻繁に出現し、ブラジル人は依頼をする際に使用する表現形式のバリエーションが乏しいと言える。

6. おわりに

本稿では、日本人とブラジル人が使用する依頼表現の分析の枠組みを設定し、双方が用いる依頼表現を対応する表現形式に分類することによって、依頼表現の丁寧度の違いを見出した。その結果として、日本人は聞き手に応じて表現形式や依頼表現の丁寧度を変え、聞き手に対する負担を最小限に抑えようとするが、一方、ブラジル人は依頼を遂行する際に、聞き手の気持ちを配慮する表現形式や敬意を示す表現の使用が少なく、聞き手の負担をほとんど考慮せずに発話する傾向があると言える。これらのことから、日本人とブラジル人がコミュニケーションを図る際に、聞き手に対する配慮の相違が大きな阻害要因になるという結論に至った。紙幅の関係で性別や年齢別の分析することは出来なかつた。年齢や性別の違いにより用いられる依頼表現や表現形式が異なる可能性があるため、新たな分析をする必要があると考えている。これらについては稿をあらためて論じることにしたい。

¹⁾法務省、在留外国人統計 2017 年 12 月を参照

(https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&stat_infd=000031669225) アクセス 2018 年 9 月 20 日

²⁾ 熊取谷 (1995) の翻訳を参照。

³⁾ (1)から(4)の例文の出典：(熊取谷 1995)

⁴⁾ 本稿のポルトガル語の例文に付された日本語は、筆者が直訳に近いニュアンスに翻訳したものである。

⁵⁾ 括弧内のポルトガル語はシチュエーションを説明するために筆者が補足したものである。

⁶⁾ *poder* 助動詞には相手の能力を問うという意味も含まれているが、依頼の際に用いられる *poder* は相手が話し手のために何かをする可能性を意味することになるので【依頼】の表現形式に分類した。その一方、*conseguir* 助動詞には相手が何かを達成する能力（知的・感動的・物理的があるか否かを問い合わせているので、【問い合わせ】という表現形式に分類した。

参考文献

井出祥子・荻野綱男・川崎晶子・生田少子. (1986) 『日本人とアメリカ人の敬語行動』 東京：南雲堂.

熊取谷哲夫. (1995) 「発話行為理論から見た依頼表現—発話行為から談話理論へ—」 『日本語学』

14(10), pp.12-21, 東京：明治書院.

砂川有里子. (2006) 「『～てもらっていいですか』という言い方 - 指示・依頼と許可求めの言語行為 -」 ,
『言外と言内の交流分野一小泉保博士傘寿記念論文集-』, pp. 311-321, 東京：大学書林.

Brown, P. and Levinson, S.C. (1987) *Politeness : Some Universals in Language Usage.* ,
London: Cambridge University Press.

Carvalho, M.V. A. (2013) *Cortesia e indireção: a expressão do pedido em Português Europeu Contemporâneo. Uma leitura das produções de alunos com Português como L2* , Coimbra: Universidade de Coimbra.

Munaretti, M.C. (2005) *A realização de pedidos em inglês como L2 em linguagem de hotelaria: um estudo construtivo.* , Porto Alegre: UFRGS.

Ono, D.K. (2014) *Expressões de pedidos em japonês falado por nisseis no Brasil*, São Paulo: Universidade de São Paulo.

Searle, J.R. (1969) *Speech acts an essay the philosophy of language.* , Cambridge:
Cambridge University Press.